



学校教育目標 広い視野と豊かな心を持った、健康でたくましい生徒の育成

東中だより

圓 困 目 標

- ・健康でたくましい生徒
- ・人の心の痛みが分かり、思いやりのある生徒
- ・進んで学び、感動できる生徒
- ・規律を守り、責任を果たす生徒
- ・厳しさに耐え、自ら努力する生徒

「通信票」と「学力」②

前号では、上智大学名誉教授の渡部昇一さん(故人)の著書の、進化論を確立したチャールズ・ダーウィンについての話題に触れながら、「通信票」や「学力」、「学ぶこと」について見つめてみました。

今回は、より具体的に、「通信票」と「学力」について、「学ぶこと」や「人生」、「世の中」を関連付けながら考えてみたいと思います。1学期の「通信票」を介しての親子の会話の材料にさせていただければ幸いです。

学力とは？

日本の学校教育においては、学校教育の基準や内容を国として定めた「学習指導要領」というものがあります。その中では、先行き不透明で予測困難なこれからの時代を生き抜く「生きる力」として、次の3つの力が挙げられており、学校教育活動のすべてにおいて、その3つの力(学習指導要領では「資質・能力」という言葉を使っています。)を養うよう、全国の学校は要請されています(本校の学校教育目標などの方針も、その3つの資質・能力を念頭に設定されています。)

自主学習の取組
取組の記録を掲示しています。



では、その3つの「資質・能力」の中身とはどのようなものかという、次のような内容です。

- ①「生きて働く知識及び技能」を身に付けること。
- ②「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」を養うこと。
- ③「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等」を涵養すること。

今、学校教育界では、「生きる力」「資質・能力」「学力」という用語がよく使われていますが、大雑把に言って、これらは同じ意味だと考えていただいても構いません。そして、その具体的な中身が、上記①～③の3つの力ということになります。つまり、「学力」といった場合、この3つを指して「学力」と言っています。

それぞれの成長(発達)に合わせた掲示物も工夫します。



そこで、今回は特に、「学力とは、上記①～③のことである」ということに注目していただきたいと思います。

例えば上記③の「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等」に関わって言うと、

- ・今日の授業で学んだことは、自分の今の生活や10年後の人生とどのような関わりがあるだろうか？
- ・理科や社会、英語で最近学んだ内容は、この世の中でどのようにつながり合っているのだろうか？
- ・自分の人生の中で、自分が学んだことは、どのような社会をどのように創っていくことにつながられるだろうか？
- ・これまで学んだ事柄と自分の人生を考えたとき、自分は今後、どのようなことをさらに学んでいく必要があるだろうか？

などと考え、自分なりの答えを手に入れていくことが学力だと考えられているということです。

前々号では、テスト問題の()を埋める答えを知っていたり、スマホなどを使って楽しく友達とやり取りするSNSやゲームに夢中になったりしているだけでは不十分なのではないかということをお話しました。昨今

の情報通信技術の進歩は専門家でも予測できないほどめざましく、現在は、これまでの時代とは革命的に根本から変わっていく過渡期の時代を迎えています。知識や技能は、実際のいろいろな問題や課題を解決していくときに「生かし、使う」ものですが、その情報通信の知識や技能を、人のお金をだまし取るために使おうと思って学ぶのか、それとも人々や社会がより豊かに幸せに、便利になるように願って学ぼうとするのかは、すべてその人の「学びに向かう力・人間性」が決めることです。①の知識や技能と②の思考力・判断力・表現力をどのように、どのような方向性で生かし使うのかを決めるのは、③の力ということになります。

七夕。どのような祈りを書いたのでしょうか？



かつてその活動が大きな社会問題となった富士山麓を拠点にしていた団体のメンバーには、高度な科学的知識と技能を持った者が多くいました。彼らのその知識と技術力は、東京霞ヶ関の地下鉄で、テロ行為のために使われ、多くの人々が犠牲になり、今もなお、その後遺症で苦しんでいる方々が大勢います。ちなみにアメリカは、あの事件の折、「これからの時代は、このようなテロの危険に常にさらされる時代になる」との国家としての予測に基づいて、この事件を研究するための研究視察団を日本に派遣しています。その後、世界各地でテロ行為は実際に続発し、アメリカ自身も、9.11の大惨事として知られるように、ニューヨークの2つの超高層ビルその他が旅客機の体当たりによって攻撃・破壊されました。パイロットとしての知識と操縦技能は、飛行機自体を自爆ミサイルとして使う攻撃のために活用されました。

本年度の入学式や始業式の折に、生徒たちに向けて話した事柄があります。その要旨は次のようなものでした。

「生徒の皆さんには、幸せな自分の人生を生きるための力を身につけて欲しい。しかし、現在起こっているヨーロッパの戦争を見れば、社会や国がしっかりしていなければ個人の幸せも成り立たないことがわかります。ですから、自分の幸せな人生を生きるためには、社会や国、世の中のことも同時に考え、それらをよくしていくことにも努力していく必要があるのです。東桂中学校の学校生活では、いつもそのことを心に留めて学んでいって欲

しいと思います。」

このお話は、上記①～③の「資質・能力=生きる力=学力」を念頭に置いたものでした。

今年も、たくさんの優勝旗を持ち帰ってくれました。



このように考えると、「学力」とは、従来多くの人々が考えてきたものとはかなり異なるものとして、現在では捉えられているということがわかります。日本の学習指導要領で述べられているこのような学力の考え方は、

現在の世界各国における学力の捉え方と一致しています。日本の学校教育も、世界標準の考え方で学力を捉えているのです

学校からお届けする通信票は、このような考え方に基づいて作成されているということ、まずはお伝えしたいと思います。

通信票の内容をどう見るのか？

通信票には、各教科にABCの記号のどれかが記入された欄があります。これは、「観点別学習状況」と呼ばれ、これまで述べた①～③の3つの学力の観点から学習成果を評価した場合に、どの程度まで学習目標が達成されたのかが記載されています。

例えば、1学期に各教科で学んだ知識や技能が、自分の力で考えて判断したり、友達などと表現し合い学び合ったりして、「実際に生きて使えるもの」となっているかどうか記載されています。これらの力は、

- ・「生きて働く知識及び技能」
- ・「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」

の2つの力として評価されています。

生徒玄関の様子。いつでも、しっかり揃っています。



また、前号で話題にしたように、学校だけでなく、生涯学習社会において、より豊かな人生を歩み、社会の創り手となっていけるよう、誰に言われることなく、自分にとって必要なことを自ら進んで学んでいこうとする態度、つまり、「学びに向かう力・人間性等」がどれだけ成長してきたかも記入されています。

ただ、「学びに向かう力・人間性等」については留意していただきたいことがあります。この学力の考え方には「人間性」が含まれています。思いやりや感性など、その人の「人間性」に関わる部分は、各教科の成績に限っては含まれていないということを知っておいていただきたいと思います。「人間性」というものは、一生かかってゆっくり養われていくものであり、「あなたの人間性はBです」などと評価できるものではありませんし、またそのように評価すべきものでもありません。ですから、教科の評価においては、③の評価は、「学びに向かう力・人間性等」の中の一部である、自ら学びに向かう姿勢や態度が身に付いてきたかどうかという「主体的に学習に取り組む態度」が評価の観点になっています。通信票のお子さまの評価をご覧になったときに、人間性や人格について、「褒める」ことはあったとしても、全てが「否定」されたと感じられてしまうような接し方は避け、

「学ぶことって、自分の人生にとってどんな意味があるのかなあ？」

個々の成長に合わせた心温まる掲示です。



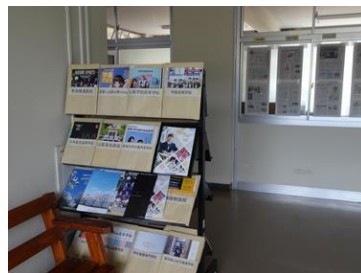
このようなことを考えさせる中で、褒めたり励ましたりして、学びに向かう力を養っていき、ご家庭でも働きかけをお願いしたいと思います。

ちなみに「人間性の成長」に関わる部分は、文章で記載されている「道徳の授業」の評価欄を参考にしてみるのもよいでしょう。

もう少し通信票についての話を進めますが、まず、観

点別学習状況の欄に「B」が記入されていたら、目標を一応達成していると判断される結果だとしてご理解ください。その目標達成レベル以上の優れた力を身に付けたと判断されれば「A」が記入されています。もし、「C」だったら、それを「B」にしていくにはどうすればよいのかと考えていただきたいと思います。「B」にするために、自分はどのようなことに努力して自分の学びを改善していったらよいのかを振り返って今後の努力につなげて欲しいと思います。つまり、「C」は、「あなたはダメです」という意味の評価ではなく、「今後の学びをどのようにしていけばよいのかを振り返り、自分の成長に役立てて欲しい」という、「今後の学びに生かしていくための評価」ということです。学校教育の世界では、専門的な呼び方として、このような、今後に生かすための評価のことを「指導に生かす評価」と呼んでいます。決して「これまでのあなたはダメである」という意味ではないということにご留意ください。結果を踏まえ、お子さまに寄り添い、どのようにしていったらよいのかを一緒に考えてあげてください。

進路情報コーナーです。未来へはばたけ！



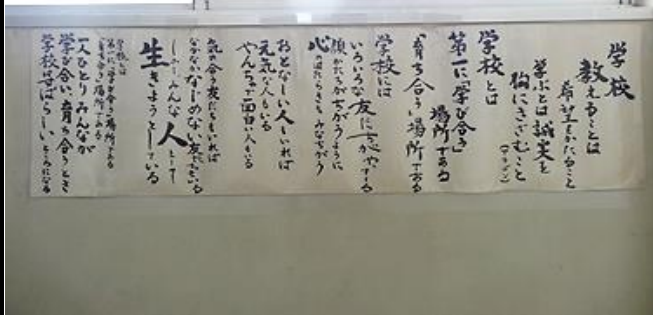
そして、5・4・3・2・1の数字ですが、これは、人と比べて優れている、劣っているということを表した数字ではありません。これは、先ほど述べた、それぞれの生徒の学習の結果である「ABCを総合

して5段階で表した数字になります。ですから、「3」が総合的に目標に達していると考えられる評価となります。「4」は目標達成ラインから比べると大変優れているといえるでしょう。「5」になると、「スーパー良い！」ということになります。何がそのような成果につながったのかを振り返り、より一層自分の良い部分を伸ばしていくようにしていただきたいと思います。「2」や「1」は、目標達成を示す「3」より低い結果となりますが、それは、「C」の例でお話したことと同様です。「今後に向けた改善点」に努力していけるような働きかけをお願いいたします。

学校教育では、自らの学びと成績は、人と比べるようなものではないと生徒に指導します。確かに順位などで人と比べることにメリットはあります。全体の中での自分の位置もわかりますし、順位を上げて成果を収めようと努力する動機付けの一部ともなり得ます。そして大人の世界では結果が求められることもあります。しかし、

大人と違って、成長途中で人間そのものを創っている最中の生徒にとっては、デメリットとなることにも注目することが必要です。まず、点数や順位「のみ」を問題にしていると、「学びの中身」がおろそかになりがちです。自分の人生や世の中をどのようによくしていけるのか、という観点が学びの中に入りにくくなります。大人の子供に対する対応も、〇点だから、順位も〇位だからすごい!、順位が10位上がったから素晴らしい!だけで終わってしまいがちになります。得点を取り、順位を上げること自体が学ぶことの目的となってしまうがちになるおそれもあります。

学ぼうと思った「その時、その場所」が、その人にとっての学校と言えるのかもしれませんが。



日本の、入学時偏差値で最難関と呼ばれる有名大学も、ハーバード大学やマサチューセッツ工科大学、オックスフォード大学などと比べれば、ずっと下のランキングです(もちろん、どのような要素をランキングの基準にするのかにもよるでしょうが...).しかし、学びや研究内容という中身で考えれば、大変優れた学びや研究をしている方がいろいろな大学にたくさん存在します。もちろんそういう方々は大学という場所ばかりではなく、社会のいろいろなところで人々が従事するいろいろな職種・分野に存在します。

かつての大学医学部での入試では、高校で学んだ生物の試験を課さないということが散見されました。ですから、医学部に進学するというのに生物を本格的に学ぶことなく高校を卒業していくということが起こっていました。大学側も、医師になろうとする学生を募集するのに、入学試験で高校での生物の学びの成果を問わないのです。

このようなことがなぜ起こったのでしょうか。たぶん、それは、学びと人生の意味やどのような世の中を創りたいと思っているのかななどを大人自身が考えておらず、その結果、子供にも考えさせようとしていなかったからなのかもしれません。

また、医師になろうとする気持ちがあやふやなのに、最難関だというだけで医学部を受験し、中途退学する現状があるということも、ある大学の学長はおっしゃって

いました。熟慮の上での進路変更ゆえならそういうこともあるでしょう。しかし、その学長曰く、医学部というところは一般的に言って、難関というだけで受験し、合格した学生の中途退学率が他の学部より高く、大学教育としての問題になっている現状があるとのことでした。

- ・「あなたは1学期の学校での学びから、どのような知識や技能を自分の人生や世の中のために大切にしようと思ったの?」
- ・「1学期の学校の授業で、おもしろいと思ったり驚いたり感動したりしたことはどのようなことがあった?」

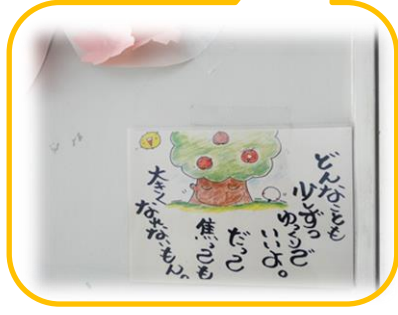
というような会話を、通信票を見ながら親子でできたら素敵だなと思います。

それぞれの人にはそれぞれの人の道があり、自分のその道で自分に必要なことを一步一步積み上げて人生を展開していくのだと思います。そこに優劣はありませんし、どれも貴重で大切な人生だと思います。生徒たちの人生には、本人も親も、周りの大人も教職員もまだ知り

階段付近の掲示物



得ない可能性がたくさん眠っているのではないのでしょうか。その可能性を導き出したり発見したり育てたりしていくために「評価」というものが存在しています。



渡部昇一さんは、
「自分の関心を広く豊かに持ち続け、自分の心の声に耳を澄まし、きちんとものを考えながら生きてほしい」

と述べています。東桂中学校の学校教育目標は、
「広い視野と豊かな心を持った健康でたくましい生徒の育成」

です。
学校からお届けする通信票は、これまでの結果のみを問題とするのではなく、「生徒たちの未来への切符」として各ご家庭で活用していただけますよう切に願っています。